

令和 5 年度

学校自己評価表（報告）

学 校 運 営 実 施 報 告		
学 校 運 営 方 針	1 新墾精神を受け継ぎ、知育・徳育・体育の活動を通して個性を伸ばし、進んで社会に貢献することのできる人を育てる。 2 I C T教育を推進することでわかりやすい授業を実現し学習の効率化を図る。また、端末を活用した個別学習の支援や情報活用能力の向上を目指す。 3 「県立学校における教員の勤務時間の上限に関する方針」に基づき勤務時間に対する意識改革等の取組を推進する。	
三つの方針(スクール・ポリシー)		
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	① 1 つの物事を多様な視点から捉える姿勢を育成します。 ② 複数の事柄を関連付けて考えることができる能力を育成します。 ③ 課題を発見し、他者と協働して課題を解決しようとする態度を育成します。 ④ 自他とともに尊重する姿勢と、よりよくコミュニケーションをとる能力を育成します。 ⑤ 自己の将来の生き方を主体的に考え、行動する意欲を育成します。	
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	① 第 2 学年以降のコース制により、生徒一人ひとりの個性と能力を伸ばします。 ② 全ての教科および総合的な探究の時間で地域と連携した取組を行います。 ③ きめ細やかな学習支援と学び直しにより、課題解決に必要な資質・能力を養います。 ④ キャリア教育により人間関係をつくる力、情報を活用する力、将来を見通し、責任をもって意思を決定する力をバランス良く育成します。	
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	① できなかったことをできるようになりたい生徒 ② 学校内外の人との関わりの中で視野を広げたい生徒 ③ 自己も他者も大切にして、ともに高め合いたい生徒	
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
1 成果 ・統合型校務支援システムを円滑に導入できた。 ・例年より早い時期に希望者全員の就職が内定した。 ・生徒心得を変更した。 ・1 学年において、支援が必要な生徒へのきめ細かな指導により、進級へつなぐことができた。 ・2 学年において、より良い人間関係を築ける生徒が増加した。 2 課題 ・今後の募集学級減への対応 ・大学・短大の学校推薦型選抜を希望する生徒の志望理由書作成をより早期に準備すること。 ・生徒心得の細部の検討。 ・生徒数の減少を踏まえた生徒会費や会計の検討。	授業を通して生徒の学習意欲を喚起し、学力の向上を図る。	・学習意欲高揚と学力向上のための環境整備と授業改善の支援 ・図書や C T 機器の利用促進
	キャリア教育の一層の充実を図る。	・進路実現に向けた早期啓発指導の実施 ・大学等進学希望者の意欲喚起と学力向上 ・就職希望者の支援と外部との連携
	人間関係形成を支援し、協調性と豊かな人間性を育成する。 環境整備と健康管理の徹底を図る。	・生徒を社会に有為な人物に育てる学校全体での指導と支援 ・生徒会執行部の体制、生徒会行事の充実と保護者、地域との連携 ・生徒理解と支援体制の充実 ・環境美化と学習環境整備、生徒の健康の保持増進と健康管理意識の啓発
	時間外の勤務時間を「1 年間 360 時間以内」を目標に、「月 80 時間を超える時間外勤務を行う教員」をゼロにするための取組を推進する。	・部活動の適正化 ・業務の削減・簡素化・効率化・平準化 ・学校閉庁日等の設定

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価		
(教務部) 授業を通して生徒の学習意欲を喚起し、学力の向上を図る	学習意欲高揚と学力向上のための環境整備と授業改善の支援	探究的な学習を充実させ、他者と協働しながら課題解決に向けて行動でき生徒を育成する。	B	B	A
		I C Tも活用しながら、主体的・対話的で深い学びによる授業を推進する。	B		
		学期毎に観点別評価の状況を各教科で共有し、次学期の授業の改善を図る。	A		
	図書やI C T機器の利用促進	生徒や教科のための図書を充実する。	A	A	
		読書環境を整備し、利用の啓発を推進する。	A		
		生徒に興味・関心を抱かせる授業の工夫ができるよう、I C Tの活用を促進する。	A		
(進路指導部) キャリア教育の一層の充実を図る。	進路実現に向けた早期啓発指導の実施	総合的な探究の時間・L H R等を利用し、各学年に応じた進路意識の啓発を行う。	A	A	A
		進路情報資料の活用方法について指導し、積極的な情報収集の姿勢を身につけさせる。	A		
		インターンシップに参加する生徒を増加させる。	A		
	大学等進学希望者の意欲喚起と学力向上	オープンキャンパスや説明会へ生徒を参加させ、大学等の魅力を理解させる。	A	A	
		総合型選抜・学校推薦型選抜入試希望者に対し、個別に小論文・面接などの指導を行う。	A		
		進路決定後の学習意欲を維持させ、学生生活への円滑な移行を図る。	B		
	就職希望者の支援と外部との連携	各学年に応じた指導計画を立案し、学年団等と連携した適切な支援活動を行う。	A	A	
		学級担任と協力しながら生徒の希望と適性に合った企業を紹介し、ハローワークとも連携して内定に至るよう支援する。	A		
		全職員の協力を得て面接指導を行い、採用試験に備えさせる。	A		
(生徒支援部) 人間関係形成を支援し、自主的、実践的な態度を育成する。環境整備と健康管理の徹底を図る。	生徒を社会に有為な人物に育てる学校全体での指導と支援	「朝の遅刻ゼロ」「授業開始時ベル着」など、時間を守る習慣を身につけさせる。（遅刻の書写指導）	A	A	A
		本校の規定を理解させ、頭髪服装検査、学年集会、SHRを通して継続的に指導する。（服装指導）	A		
		学期初めの校門指導（頭髪服装、自転車指導）を通し、マナーを向上させる。	A		
		スマホ等の通信機器の利用、マナーを指導する。	A		
		生徒会によるいじめ防止啓発運動を行う。	A		
	生徒会執行部の体制、生徒会行事の充実と保護者、地域との連携	生徒の声を活かした生徒会の運営を目指す。執行部が組織的に機能できるよう、リーダー研修等の指導を充実する。	A	A	
		校内外の広報活動を充実させ、生徒ひとりひとりが主役の生徒会行事を実現する。	A		
		地域の特色を活かしたテーマや展示案内の工夫などにより、地域に本校の特色を積極的に発信する。	A		
	生徒理解と支援体制の充実	特別支援委員会、いじめ未然防止に関わる委員会、学級担任、保護者などと連携し、I C Tも活用して生徒情報の共有の効率化を図り、生徒の指導に有効活用する。	A	A	
		いじめ防止対策推進教員、スクールカウンセラーと連携して教育相談にあたり、生徒の心の健康管理について指導をする。	A		
		年5回以上定期的にアンケート調査を実施し、いじめ等の把握と防止に努め、対応策を検討する。	B		
	環境美化と学習環境整備、	清掃の徹底を図り、快適な生活環境づくりを進める。清掃強化週間を定期的に設定する。	A	A	
		安全点検を行い、校舎内外での事故防止に努める。	A		

	生徒の健康の保持増進と健康管理意識の啓発	生徒が常に自己の心身の健康状態を知り、健康管理ができるように指導する。	A		
(1学年) 基本的な生活習慣の確立	コース制の特長を生かす学習指導と進路指導の充実	保護者がコース制について十分理解し、生徒とともに納得して選択できるよう資料や説明の充実に努める。	B	A	B
		適切なコース選択を目指し、個別面談の充実に努める。	A		
	規範意識の醸成	朝の遅刻指導で指導を受ける生徒数の減少に努める。きちんとした身なり、服装で生活するよう指導をする。	A	B	
部活加入率を高め、継続して活動するよう指導する。		B			
(2学年) コミュニケーション能力の育成	基本的な生活習慣、集団生活のマナーの確立	朝の校門指導や朝学習を通して遅刻、服装等の学校生活における基本的習慣の徹底を図る。	B	B	B
		学年集会、修学旅行などの団体行動を通じて、協調性を高める指導を行う。	A		
		日々のHRでの粘り強い指導で、正しい学習態度の確立と意欲的な態度の養成を図る。	B		
	進路に対する意識の高揚	進路学習を通して、働くことの心構えや厳しさを学び、自らの進路選択や職業意識を育成する。 進路情報を積極的に提供し、LHRや総合的な探究の時間、個別相談の充実に努める。	A		
(3学年) 自己の資質向上と自立的生活の確立	社会的な自立に向け、基本的な生活習慣・規範意識の確立	学年集会・HR・進路ガイダンス等を通じて、基本的な生活習慣や社会的規範意識を育成・確立し、一般社会で通用する常識・良識ある人間性を養う。	A		A
	自己の進路実現に向け、学力の定着と進路支援強化	学校見学、職場見学に積極的に参加できるようにする。	A	A	
		進路指導部と連携を取り、適切な進路情報を提供、学習支援を行っていく。	A		
		進路希望を最後まで諦めないよう、各担任が継続的な粘り強い指導を行う。	A		
	学校行事・部活動において主体的に取り組む	最高学年として、あらゆる面においてリーダーシップを発揮することができる環境を整える。	A		
教科の学習の充実	基礎学力の定着と向上	授業と並行して課題・書写・小テストなどを行い、学習習慣の確立を図る。	B	B	B
		きめ細かい成績不振者補習を行い、学力の向上を図る。	A		
		教えられて学ぶ授業から考えて学ぶ授業になるよう、ICT・視聴覚教材を利用するなど教材を工夫する。	B		
	進路実現に向けた学力養成	生徒の進路希望に応じて、個別指導を充実させる。	B		
	資格取得の推進	漢字検定や商業・情報関連資格を積極的に受検させる。	B		
魅力のある学校として特色ある学校づくり	部活動の活性化	各顧問の親身な指導と相談により、実質活動者数を年間通じて維持できるようにする。	B		B
	地域との連携	地域の外部機関との連携を強化し、社会に開かれた教育課程を実現する。	A		
	学校の魅力発信	学校ホームページの充実等により、積極的な情報発信を行う。	B		
時間外の勤務時間を「1年間360時間」	部活動の適正化	・各部活動が「豊栄高等学校部活動に係る方針」に沿って活動する。	A		A

以内」を目標に、「月 80 時間を超え る時間外勤務 を行う教員」 をゼロにする ための取組を 推進する。	・業務の削減・簡素化・ 効率化・平準化	・会議資料や校務情報のペーパーレス化を推進する。	A	
	・定時退庁日、 閉庁日の設定・ 運用	・定時退庁日、 閉庁日を適切に 設定し、定時退 庁日には退庁時 刻をアナウンス するなど、効果 的に運用する。	A	
成果	【教務】 ・統合型グループウェアや Home Service の利用が進み、校務の能率が向上した。 【進路指導】 ・就職希望者は、総合的な探究の時間や LHR を活用して早期から進路実現に向けた準備を行ったことや、ジョブコーディネーターからの支援などにより、希望者全員の就職内定を実現することができた。 【生徒支援（生徒指導・生徒会）】 ・PTA や商工会との連携の下、活気に満ちた豊高フェスティバルを実施することができた。 ・69 件のいじめを認知し、丁寧に対応することで重大事態を防止することができた。 【地域連携】 ・授業、特別活動、生徒会、部活動における地域との連携に加えて、学校全体で巨大文字オブジェの制作に取り組み、学校の魅力を地域に広く知らせることができた。			

学番	1 4	県立豊栄高等学校
----	-----	----------

令和5年度

学校関係者評価（報告）

学校関係者からの評価・意見等※
<評価> ・学校の統合についての説明、個別の生徒への対応、情報提供への姿勢、大学や行政、地域と協働する行事・イベントへの参画、共同制作による地域との関係の深まりなどにおいて最も改善が見られたため、学校自己評価の結果は概ね適切であった。 <意見> ・量よりも質を目標とした方が良い。 ・評価Bの根拠を明確にした方が良い。

※「自己評価の結果の内容が適切かどうか」

「自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか。」

「学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか。」

「学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか」などを評価する。

学番	14	県立豊栄高等学校
----	----	----------

令和5年度

学校自己評価表（報告）

学校運営実施報告	
重点目標	学校関係者評価を踏まえた次年度の主な課題と改善策
授業を通して生徒の学習意欲を喚起し、学力の向上を図る。	課題 学習の個別最適化を図り、個に応じた学習を推進すること 改善策 ・観点別評価を生徒にフィードバックし、学習状況の改善を図る。 ・学習支援クラウドサービスを活用する。
キャリア教育の一層の充実を図る。	課題 生徒の職業観を改善すること 改善策 ・インターンシップなどの職業体験に多くの生徒を参加させる。
人間関係形成を支援し、協調性と豊かな人間性を育成する。環境整備と健康管理の徹底を図る。	課題 生徒の人間関係形成能力を育成すること 改善策 ・主体的・対話的で深い学びによる授業に加えて、探究学習の過程で大人とのコミュニケーションを経験させる。
時間外の勤務時間を「1年間360時間以内」を目標に、「月80時間を超える時間外勤務を行う教員」をゼロにするための取組を推進する。	課題 特定の時期に時間外勤務時間が80時間を超える職員が出る 改善策 2人担任制を活用し、業務分担の適正化を図る。